

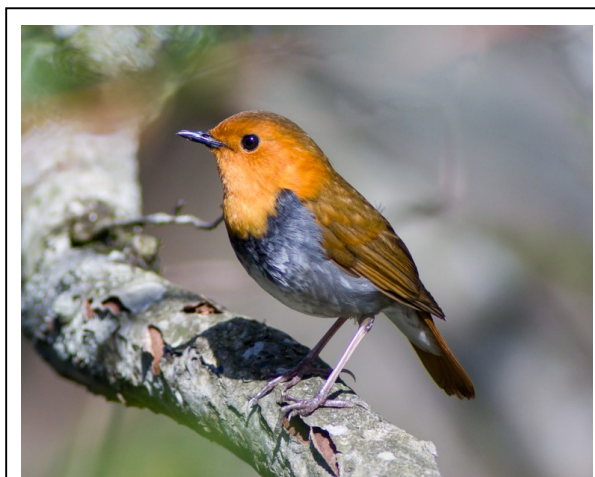
コマドリ *Luscinia akahige* (Temminck)

【選定理由】

1980年代までの県内には4箇所程度の繁殖地があり、総数で10～15ペア程度が繁殖していたものと推測されるが、2000年代に入ると繁殖地は2箇所になり、近年県内で繁殖期に生息しているのは1箇所1ペア程度となっている。しかし、残された1箇所でも繁殖が成功していない可能性が高く、2013年以降は繁殖期を通して確認することも困難となっている。

【形態】

全長14cm。頭部から上胸及び尾は鮮やかな橙赤褐色。背と翼の上面は暗赤褐色、腹と下尾筒は灰白色。上胸と腹の境は、雄は黒帯があり区分が明瞭だが、雌は黒帯がなく不明瞭で全体的に色が淡い。嘴は黒色で脚は黄褐色。



長野県下伊那郡根羽村, 2008年5月4日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

夏鳥として標高1,000m程度以上の山地にある原生林や、二次林に飛来して繁殖する。春秋の渡りでは、島嶼や半島、低山や平野部にある市街地の公園などでも確認されることがある。

【国内の分布】

日本には、夏鳥として亜種コマドリ *E. a. akahige* が九州以北に飛来するほか、亜種タネコマドリ *E. a. tenensis* が伊豆諸島南部、屋久島、種子島に周年生息する。

【世界の分布】

サハリン、南千島、日本で繁殖し中国南部で越冬する。

【生息地の環境／生態的特性】

山間部の広葉樹林や針広混交林で下草にササ類が繁茂する場所に生息し、地上の物陰に広葉樹の枯葉や枯れ草でわん形の巣を作る。藪の中から出て姿を見せることは少なく、ササ藪の中から聞こえてくる囀りを聞くことが多い。ヒン、カララララ・・・と大きな声で囀る。特に春の渡りではよく囀るので、平野部や半島、島嶼、市街地の公園などでもその囀りを聞くことがある。

【現在の生息状況／減少の要因】

現在、県内での繁殖は1箇所1ペア程度で、近年はその繁殖も成功していない可能性が高い。減少の要因として、過去には野鳥飼育マニアによる密猟が最大の問題であった。生息数が極限まで減少している現在、本種の生息に最も大きな影響を及ぼしているのは野鳥の撮影マニアである。

【保全上の留意点】

野鳥の写真を撮りたい者には、他県へ行けば本種の生息数が多い地域もあるので、愛知県に残る最後の1ペアを撮影の対象としないよう、こうした行為へ監視の目を強化しなければならない。また、立入禁止区域を設定することで、生息環境を保全することも検討する必要がある。

【特記事項】

県内東部にある標高1,000m程度以上の原生林や二次林には、下草としてササ類のスズタケが繁茂しているが、2014年頃から花が咲いて枯れはじめ、2019年現在は県内全域のスズタケが全て枯れている。定期的な更新現象とも推測されるが、生息する鳥類への影響を観察していく必要がある。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.262. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)